

すべての機能を備えたデラックスタイプ

コンビラック デラックスGX

●取扱説明書●



ラックデラックスGXの特長

①リクライニングチェア、ゆりかご、ミニベッドと1台3役の機能をもつ、ゆったり設計のラックです。

②座面、背面の幅をワイドにし、たっぷりした居住スペースをとりました。

③ニギリをしめる、ゆるめるだけで、自由な角度が選べます。ねむる、ロッキングさせる、あそぶ、ミルクを飲む、ゲップを出すなどにあわせてお使いください。

④大きなテーブルは、お食事、お遊びにとても便利です。

⑤クッションの表地は綿を使用しているため、吸湿性、通気性にすぐれ、肌ざわりはソフトです。

⑥前後の車輪をおろすと、お部屋からお部屋への移動がとてもスムーズです。

ラックは正しくお使いください

①赤ちゃんは、思わず動作をすることがあります。ラックをご使用になるときは、必ず保護者の目が届く場所でお使いください。

②赤ちゃんをラックに座らせるときは、必ず股ベルトを使用してください。腰ベルトだけだと、ずり落ちたりして、赤ちゃんの首をしめることも考えられ危険です。

③ゆるい腰ベルトも危険です。背を立てたときに赤ちゃんが自由に動きすぎ、転倒したり、すり抜けたりすることも考えられますので、ベルトは必ずしっかりと締めてお使いください。

④角度調節握りは、必ずしつ

かり締めてください。さらに、安全の為ご使用時には、そのつどスリップしないか確かめてください。

角度調節握りはあまり力を入れなくとも締まる構造になっています。締めすぎますとネジをいためる恐れがありますのでご注意ください。

⑤角度調節握りは小さなお兄ちゃんやお姉ちゃんがいじりますと、赤ちゃんが座っている場合は危険ですので、お母様から、十分注意してください。

⑥移動タイプのときは、小さなお子様でも簡単に動かせますので、危険です。保護者はそばを離れないで、十分注意し

コンビラックには 「生産物賠償責任保険」 がついています

弊社はコンビラックの品質について安心してお使いいただける様に万全の配慮を致しておりますが、消費者のみなさまが、正しい方法で製品をお使いになつたにもかかわらず、製品の欠陥により、赤ちゃんの身体に損害をおかけした場合は、その損害を補償するため、保険会社と提携して「生産物賠償責任保険」の契約をしております。万一事故が発生した場合は、直ちに弊社にご連絡ください。

*製品の仕様は、改善等のため予告なしに変更することがあります。

賠償についてのご注意

1.この制度は傷害等の身体的な損害についてのみ賠償する制度で、製品の品質について補償するものではありません。

2.保険金の限度額は2,000万円ですが、軽傷の場合でも2,000万円の賠償をするということではありません。それぞれ実情損害の程度に応じ、保険会社の公平な査定の上、妥当な額をお支払いすることになります。

◆この制度はご利用者から保険申込みする必要はありません、弊社がコンビラックに契約しています。

ください。移動がすんだら、後ステーを引き出して固定タイプにするか、ロックングタイプにしておきましょう。

⑦コンビラックは赤ちゃん用に設計し、十分耐える強度をもっていますが、赤ちゃん以外のご使用はご遠慮ください。

⑧テーブルや本体が汚れたときは、必ず薄めた中性洗剤か、ぬるま湯で洗ってください。クッションは、洗濯機で丸洗いできます。水流調整を弱にセットして、通常の洗剤を使用してください。脱水を使用してください。脱水したあと、綿の片寄りを直し日陰で平干してください。漂白剤は使わないでください。

事故発生の場合は、次の項目をご連絡ください

1.事故の原因となった製品
①製品の名称
②製品の購入先、購入年月日

2.事故発生の状況

①事故発生年月日
②事故発生の場所
③事故発生の状況

3.被害の状況

①被害者の氏名、年令、性別、住所
②被害者の状況と程度（医師の証明）

組立て方

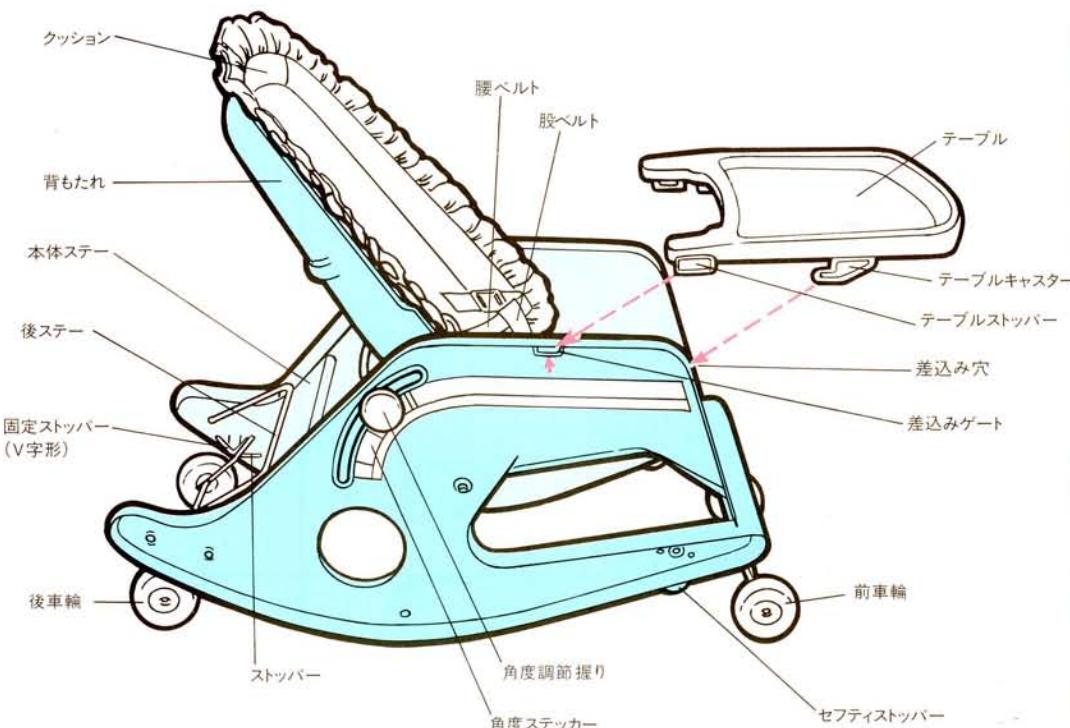
テーブルをセットします

- ① テーブル両サイドにあるテーブルストッパーを外側に引きだしておきます。
- ② テーブルの下のテーブルキャスター左右を本体の差込み穴に差しこみます。

- ③ テーブルストッパー左右を本体の差込みゲートに押しこみます。このとき、軽く動かしてセットされたことを確認してください。

テーブルを外したいときは、セットするときと逆の方法で操作してください。

各部のなまえと、組上り図



クッションを取りつけます

- ④ クッションのひもは、上中下の3ヵ所に各2本ずつ、合計6本ついています。まん中だけが本体にとめてありますから、上下についててもおなじようにして本体の穴にひもを通し結びつけてください。クッションなしでは使用しないでください。

ご使用方法



ロッキングチェア ゆりかごとして

- ① 前車輪軸を内側に回転させると、回転軸が車輪ストッパーの溝に落ち込み、とまります。
- ② 後ステーを外側に回転させ、本体ステーにあたるところでとめます。つぎに、後車輪軸を内側に回転させるとストッパーにより、とまります。
- ③ ロッキングするときの角度は、角度調節握りに適正範囲を明示していますので、お好みのところで使用してください。

※二三　脚部前の下にあるセフティストッパーは、前倒防止と赤ちゃんが本体脚に足をはさまないための安全対策です。

固定チェア ミニベッドとして

- ① 前車輪軸を外側に回転させると、回転軸が車輪ストッパーの溝に落ち込み、とまります。

② 後ステーを内側に大きく回転させ、V字形の固定ストッパーにあたるところでとめて固定します。

このとき、角度をもっとも水平にしていると後ステーが本体背部の裏側にぶつかり回転できませんので、角度を少しあげてから回転させてください。

③ 授乳後30分くらいはゲップの出やすい角度にしてあげましょう。背もたれをゲップマークにあわせ、お乳といっしょに飲んだ空気をだしてください。おなかに空気がたまつまま寝かせると、赤ちゃんは不快です。

移動のとき

- ① 前車輪を固定チェアのときと同様にセットします。
- ② 後車輪軸を外側へ、V字形の固定ストッパーにあたるところまで回転させ、とめます。

※二三　移動タイプのときは、小さなお子さまでも簡単に動かせますので危険です。保護者はそばを離れないで十分注意してください。移動がすめば、固定チェアかロッキングチェアにしておきましょう。

★ご注意★万一、腰ベルトから差し込みパックルを誤ってはずした場合は、図のようにセットしてください。



ラックは
かさいいママのあひき

コンビラックデラックスGX

月齢
0

3ヶ月

6ヶ月

9ヶ月

12ヶ月

24ヶ月

36ヶ月

体の発達のめやす

ラックの用途

●寝椅子
(一番寝かせた角度で)

ベッド代りに使用できます



首がすわる
ゲップを自分で出せる
寝返りをうてる

腰がすわる
はう

つかまり立ちする

ひとりで歩く

●ゆりかご

ロッキング表示角度の範囲内で



ステーを外すだけで、ロッキングが出来、ゆりかご代りとなります。

●遊び椅子

赤ちゃんが喜ぶ角度で



視野が広がって、知的情緒的・社会的側面の発達を促します。



家事などの際、お母さんのそばに手軽に移動できます。目によるあたたかいスキンシップが赤ちゃんを安心させます。



日光浴・外気浴などの際、涼しい所や暖かい所へと容易に移動できます。

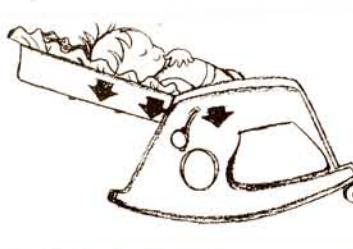
●授乳の時

1番倒した角度でお使いください

お母さんのだっここの感じで



無理なく体を保持し、赤ちゃんは疲れません。抱きぐせもつきません。



授乳後20~40分は「ゲップ」の表示角度で、ゲップを出させましょう



果汁・離乳食

●ゲップの時

赤ちゃんが快適な角度を選んで食事が出来ます。



子供一人で食事(背面を一番立てて)



テーブルを使い一人で食事をしたり、テーブルを外して座卓に参加したりできます。

●食事椅子

ラックの正しい使い方とご注意

Q1 ラックは生後何ヶ月から使用できますか?

ラックは0ヶ月の赤ちゃんからご使用できます。ただ生まれすぐの新生時期の赤ちゃんは首がすわっていないため、背を立てた角度で、身体を起して使うことは無理です。水平に近い角度で寝かせてご使用ください。首がすわってからは赤ちゃんが喜ぶ角度を選んであげてください。

Q2 1日に何回くらい、何分くらい座らせておいて大丈夫ですか?

赤ちゃんをラックに座らせておく時間は1回30分から1時間位が適当です。赤ちゃんがきげんよくひとり遊びしている時間がめやすになります。赤ちゃんには、やはりママのだっこがだいじです。ラックに入れっぱなしはよくありません。また広いベッドやふとんの上で身体を

自由に動かすこと大切です。1日の使用時間は合計3~4時間が望ましいと思います。赤ちゃんの発育には多様な場所が必要です。でも、ラックでよく寝ている赤ちゃんを無理に他の場所につれてゆく程の必要はないと思います。ラックを上手にご利用されて、赤ちゃんもママも快適な日々をお送りください。



赤ちゃんにとって、ママの腕の中やひざの上にまさる心落ち着く場所はないでしょう。でもママは赤ちゃんにかかりっきりといふ訳にはいきません。ラックはどこへでも簡単に移動ができますから、ママが仕事をしているそばに置けばママの姿が見え、赤ちゃんの心理的欲求

にこたえることができ、赤ちゃんは安心します。ママも安心して家事をしたり、読書など、自分の時間が持てます。またラックの中の赤ちゃんはベッドに寝ている時や、ママの背中におんぶされている時とは違った視点で回りの物を見ることができます。